

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	8月の価格情報				9月の価格情報				入荷量及び主要産地	生育及び価格の9月下旬までの見通し			「図の見方」			
	(参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格		指定野菜の関東・近畿 ブロック旬別平均販売 価額		(参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格		指定野菜の 関東・近畿 ブロック旬 別平均販 売価額			生育及び価格の9月下旬までの見通し						
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬		生育及び価格の9月下旬までの見通し						
葉茎菜類	キャベツ	74.19	69 (93%)	66 (89%)	74.19	76 (102%)	入荷量 : 15,181t ・主産地 : 群馬 (76) 、岩手 (14)	平均価格	群馬産は、前進出荷傾向となっていたが、台風等の多雨による収穫作業の遅れと出荷の終盤を迎えることから、今後は落ち着いていくものの、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。岩手産は、台風の大風による傷みや病害はあるものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	群馬産及び岩手産の出荷が平年よりやや多め若しくは平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。	「図の見方」	現時点の価格水準 平均価格	今後の価格水準			
		88.91	72 (81%)	67 (75%)	88.91	81 (91%)	入荷量 : 3,710t ・主産地 : 群馬 (77) 、長野 (22)	平均価格								
	たまねぎ	93.34	169 (181%)	142 (152%)	83.77	134 (160%)	入荷量 : 11,129t ・主産地 : 北海道 (95)	平均価格	北海道産は、台風による大雨とその後の気温の上昇に伴う病害発生等の懸念はあるものの、水分を含んでも乾燥させることで影響が出にくい作物であり、流亡による被害も限定的とみられること、また、被害のあった輸送網は一部復旧しており、復旧が済んでいないところは振り替え輸送で対応していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	北海道産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに近づくものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。						
		93.34	178 (191%)	156 (167%)	83.77	147 (175%)	入荷量 : 3,852t ・主産地 : 北海道 (73) 、兵庫 (26)	平均価格								
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	287.00	338 (118%)	302 (105%)	287.00	310 (108%)	入荷量 : 4,735t ・主産地 : 青森 (26) 、北海道 (21) 、秋田 (15) 、山形 (8)	平均価格	青森産は、台風の影響により折損等が発生しており、下等級品の増加や歩留まりの低下がみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。北海道産は、台風による折損や腐敗が散見され、品質や歩留まりの低下がみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。秋田産は、多雨や豪雨の影響で生育がやや遅れていたため、現在平年よりやや少なめの出荷となっているものの、生育は順調で作付面積も増加していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。山形産は、多雨による収穫遅れから少なめの出荷となっており、今後は豪雨により生育が遅れているため、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。	秋田産の出荷が平年並みと見込まれるもの、青森産、北海道産及び山形産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。						
		487.13	483 (99%)	497 (102%)	487.13	526 (108%)	入荷量 : 185t ・主産地 : 香川 (34) 、徳島 (16) 、大阪 (13) 、奈良 (10)	平均価格								
	はくさい	58.82 81.96	57 (70%)	56 (68%)	81.96	71 (87%)	入荷量 : 8,982t ・主産地 : 長野 (85) 、北海道 (10)	平均価格	長野産は、8月下旬からの多雨及び気温の低下により生育が遅れており、多雨による傷みも見られることから、現在平年より少なめの出荷となっている。今後、天候が回復すれば、出荷量が回復することから、平年より多めの出荷の見込み。北海道産は、台風による大雨の影響から病害が発生しており、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。	北海道産の出荷が平年より少なめと見込まれ、天候次第ではあるものの、長野産の出荷が平年より多めと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。						
		62.79 88.72	52 (59%)	51 (57%)	88.72	66 (74%)	入荷量 : 3,727t ・主産地 : 長野 (99)	平均価格								
	ほうれんそう	583.95	641 (110%)	700 (120%)	583.95	999 (171%)	入荷量 : 909t ・主産地 : 群馬 (27) 、茨城 (20) 、栃木 (18) 、岩手 (12)	平均価格	群馬産は、多雨による収穫の遅れと一部のほ場で播種直しがあるものの、生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、豪雨の影響で生育が緩慢になっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。栃木産は、現在平年並みの出荷であるものの、多雨等による生育の遅れや、一部播種できなかったほ場があることから、今後は平年より少なめの出荷の見込み。岩手産は、台風等の被害から生育は回復傾向にあるものの、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。	群馬産の出荷が平年並みと見込まれるもの、茨城産、栃木産及び岩手産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。						
		670.86	666 (99%)	752 (112%)	670.86	886 (132%)	入荷量 : 403t ・主産地 : 岐阜 (74) 、北海道 (10)	平均価格								
	レタス (結球)	158.27	103 (65%)	133 (84%)	158.27	179 (113%)	入荷量 : 8,461t ・主産地 : 長野 (84) 、群馬 (9)	平均価格	長野産は、高冷地産の出荷終了後、多雨と低温により二期作の生育が遅れたため、一時的に少なめの出荷となっているものの、今後、天気が回復すれば、平年並みの出荷の見込み。群馬産は、台風等の多雨による収穫遅れや品質の低下はみられるものの、生育は概ね順調なことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。	天候次第ではあるものの、長野産及び群馬産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。						
		152.57	110 (72%)	146 (96%)	152.57	188 (123%)	入荷量 : 1,626t ・主産地 : 長野 (99)	平均価格								
果菜類	きゅうり	221.22	178 (80%)	244 (110%)	221.22	272 (123%)	入荷量 : 7,380t ・主産地 : 福島 (28) 、岩手 (15) 、秋田 (11) 、群馬 (9) 、埼玉 (9)	平均価格	福島産は、抑制作の生育は順調で現在平年並みの出荷であるものの、終盤を迎える露地物の生育は9月上旬の低温の影響がみられるうことから、今後はやや少なめの出荷の見込み。岩手産は、生育の遅れが回復したことから後ろ倒しで出荷が増えており、現在は平年より多めの出荷となっているものの、今後は気温の低下や降雨の影響から平年並みの出荷の見込み。秋田産は、台風による多雨の影響で一部生育が遅れていることから、現在平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は生育が回復すると見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。群馬産は、台風後の気温の上昇により、生育遅れが回復したことから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。	群馬産が平年よりやや多めと見込まれるもの、福島産、岩手産及び秋田産の出荷が平年よりやや少なめ若しくは平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。						
		232.80	183 (79%)	256 (110%)	232.80	307 (132%)	入荷量 : 1,609t ・主産地 : 北海道 (34) 、福島 (25) 、愛媛 (13)	平均価格								
	トマト (大玉)	252.46	205 (81%)	229 (91%)	252.46	257 (102%)	入荷量 : 7,710t ・主産地 : 北海道 (20) 、青森 (17) 、福島 (15) 、千葉 (14) 、群馬 (8)	平均価格	北海道産は、台風により一部でビニール損傷や冠水はあったものの、6月からの天候不順により生育が遅れていた分が出来、出荷のピークを迎えたことから、現在平年より多めの出荷となっている。今後は気温の低下もあり、平年より少なめの出荷の見込み。青森産は、台風による影響はなく、台風以外は天候に恵まれ生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。福島産は、生育は概ね順調なことから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。千葉産は、生育及びびん玉傾向となっているものの、生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、気温の低下に伴い小玉傾向となっているものの、生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	青森産、福島産、群馬産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。						
		298.46	243 (81%)	258 (86%)	298.46	292 (98%)	入荷量 : 1,702t ・主産地 : 北海道 (40) 、岐阜 (34) 、岡山 (8)	平均価格								
	なす	230.51	165 (72%)	229 (99%)	230.51	314 (136%)	入荷量 : 3,780t ・主産地 : 栃木 (32) 、群馬 (25) 、茨城 (21)	平均価格	栃木産は、8月の気温上昇に伴い出荷が進んだ影響から、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。群馬産は、多雨の影響で病害が散見されるものの、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、台風による影響でスレ果等が散見されるものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	群馬産、茨城産の出荷が平年並みと見込まれるもの、栃木産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。						
		232.81	168 (72%)	187 (80%)	232.81	278 (119%)	入荷量 : 1,014t ・主産地 : 山梨 (36) 、徳島 (11) 、奈良 (8)	平均価格								
	ピーマン	263.58	211 (80%)	213 (81%)	263.58	276 (105%)	入荷量 : 2,443t ・主産地 : 茨城 (37) 、岩手 (37) 、青森 (11)	平均価格	茨城産は、生育は概ね順調で、現在平年よりやや多めの出荷となっているものの、一部で品質の低下がみられること、豪雨による花落の影響が懸念されることから、今後は平年並みの出荷の見込み。岩手産は、天候不順による生育の遅れからの回復による後ろ倒し出荷で、現在は平年より多めの出荷となっているものの、今後は気温の低下の影響により、平年並みの出荷の見込み。	茨城産及び岩手産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年を上回って推移する見込み。						
		296.27	200 (68%)	210 (71%)	296.27	293 (99%)	入荷量 : 563t ・主産地 : 青森 (19) 、兵庫 (13) 、大分 (12) 、北海道 (11) 、茨城 (9)	平均価格								
根菜類	だいこん	94.60	117 (124%)	116 (123%)	94.60	121 (128%)	入荷量 : 12,064t ・主産地 : 北海道 (62) 、青森 (33)	平均価格	北海道産は、台風による大雨の影響で病害や割れが発生しており、また、8月の播種作業が進まなかつたこともあることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。青森産は、台風による多雨の影響により腐敗が発生しており、生育の遅れも見られることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。	北海道産及び青森産の出荷が平年よりも少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。						
		95.37	112 (117%)	115 (121%)	95.37	118 (124%)	入荷量 : 3,833t ・主産地 : 北海道 (63) 、青森 (14) 、岩手 (8)	平均価格								

1 主要野菜の生産出荷状況

種類		8月の価格情報		9月の価格情報		入荷量及び主要産地	生育及び価格の9月下旬までの見通し		「図の見方」	
		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額			(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格			
		中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	平均価格		
いも類	さといも	254.79	503 (197%)	406 (159%)	254.79	327 (128%)	・入荷量：982t ・主産地：千葉(73)、埼玉(9)	↓	千葉産は、生育は順調であるものの、台風等の多雨による掘り取りの遅れが影響していることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。	「図の見方」
	ばれいしょ	220.11	414 (188%)	354 (181%)	220.11	402 (183%)	・入荷量：173t ・主産地：愛媛(41)、宮崎(31)		千葉産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	ばれいしょ	111.77	130 (116%)	129 (115%)	111.77	154 (138%)	・入荷量：7,835t ・主産地：北海道(97)	↓	北海道産は、台風による収穫作業の遅れ及び腐敗、病害が発生しており、また、輸送は振り替え輸送等で対応しているものの、十勝周辺での道路規制等の影響がみられることが、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。	
	ばれいしょ	111.77	136 (122%)	135 (121%)	111.77	185 (166%)	・入荷量：1,452t ・主産地：北海道(97)	↓	北海道産の出荷が平年よりも少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	

注：1 平均価格は、過去6カ年（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価額の赤字および青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字および赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/k g、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去6カ年平均の数値である。
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで前年実績である。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。
7 はくさいの平均価格は、上段は7月1日～8月10日まで、下段は8月11日～10月15日までの価格である。

種類		8月の価格情報		9月の価格情報		入荷量及び主要産地	生育及び価格の9月下旬までの見通し		「図の見方」		
		(参考)過去5カ年平均価格		東京・大阪市場の旬別価格			(参考)過去5カ年平均価格				
		中旬	下旬	東京・大阪市場の旬別価格	上旬		中旬	下旬			
洋菜類	ブロッコリー	361.38	480 (133%)	503 (139%)	463.99 (132%)	613 (132%)	・入荷量：1,482t ・主産地：北海道(65)、長野(19)	↓	北海道産は、台風の影響により病害が発生しており、歩留まりが低下していることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。長野産は、二期作目の生育が順調で出荷も盛期であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	「図の見方」	
		374.93	485 (129%)	526 (140%)	440.35 (125%)	551 (125%)	・入荷量：366t ・主産地：北海道(55)、長野(30)	↓	長野産の出荷が平年並みと見込まれるもの、北海道産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。		
根菜類	ごぼう	287.26	397 (138%)	378 (132%)	258.04 (141%)	364 (141%)	・入荷量：904t ・主産地：青森(55)、群馬(13)、茨城(12)	↓	青森産は、台風の影響により葉の損傷や茎の折れが発生しており、細い物や短い物が多くなると思われることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。群馬産は、暖冬による前進出荷により、切上がりが早まり終盤を迎えることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。	「図の見方」	
		172.56	260 (151%)	264 (153%)	169.63 (149%)	253 (149%)	・入荷量：669t ・主産地：北海道(33)、群馬(17)、中国(13)、青森(12)、茨城(11)	↓	青森産及び群馬産の出荷が少なめと見込まれることから、現在平年を上回っているの価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。		
果菜類	かぼちゃ	177.84	232 (130%)	246 (138%)	142.49 (186%)	265 (186%)	・入荷量：3,948t ・主産地：北海道(94)	↓	北海道産は、台風やその後の多雨による日照不足で、現在平年より少なめの出荷となっているものの、今後は生育の遅れが見えてくると見込まれることから、ほ場水分が多いことによるロスの懸念はあるものの、平年より多めの出荷の見込み。なお、輸送については主産地が函館、苫小牧等であるため、大きな影響はない。	「図の見方」	
		164.50	201 (122%)	203 (123%)	133.59 (178%)	238 (178%)	・入荷量：1,334t ・主産地：北海道(86)、N Z(11)	↓	北海道産の出荷が平年より多めと見込まれることから、現在平年を大幅に上回っている価格は、平年に近づくものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。		

注：1 平均価格は、過去5カ年（平成23～27年）の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/k gである。
3 旬別価格の赤字および青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字および赤の背景は平均価格を80%を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで前年実績である。
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで前年実績である。

2 トピック 一 かんしょの需給動向等について 一

かんしょは、いもの第2弾として、寒さが増すにつれて需要が高まる「かんしょ」について紹介する。		かんしょは、中米（メキシコ高原）が原産といわれておらず、日本への伝播は諸説あるものの、主に中国から琉球（現在の沖縄）を経由するなどして伝わったとされている。沖縄や鹿児島では唐芋（からいも）と呼ばれ、関東では薩摩芋から伝わったことから、薩摩芋（さつまいも）とも呼ばれた。なお、馬鈴薯及び甘藷の「薯」と「諧」は、どちらも「いも」という意味である。		かんしょの月別購入量・金額の推移（二人以上の世帯）		かんしょ(生鮮・乾燥)の輸出量の推移		かんしょの作付面積と出荷量の推移	
かんしょは、中米（メキシコ高原）が原産といわれておらず、日本への伝播は諸説あるものの、主に中国から琉球（現在の沖縄）を経由するなどして伝わったとされている。沖縄や鹿児島では唐芋（からいも）と呼ばれ、関東では薩摩芋から伝わったことから、薩摩芋（さつまいも）とも呼ばれた。なお、馬鈴薯及び甘藷の「薯」と「諧」は、どちらも「いも」という意味である。		かんしょの月別購入量・金額の推移（二人以上の世帯）		かんしょ(生鮮・乾燥)の輸出量の推移		かんしょの作付面積と出荷量の推移			
かんしょは、18世紀前半、「享保の大飢饉」の際に、土壤を選ばない栽培のしやすさ、栄養価の高さなどから、八代将軍徳川吉宗の目に留まり、蘭学者青木昆陽に命じて飢饉や食料難の「救荒作物」として栽培を奨励し、多くの人命を救った優れた作物として全国に広まった。18世紀中ごろには武蔵野台地に導入され、その主産地の川越は、良質なかんしょの生産で有名であった。江戸時代の「九里四里（栗より）うまい十三里（うまい十三里）」といつたしゃれは、川越が、江戸から十三里（約52km）のところにあるためそう呼ばれるようになったといつて説もあり、庶民に身近な作物として認知されていたことがわかった。前回紹介したばれいしょが広まったのが明治時代、かんしょはそれより前から庶民に広まっていた。		かんしょの月別購入量・金額の推移（二人以上の世帯）		かんしょ(生鮮・乾燥)の輸出量の推移		かんしょの作付面積と出荷量の推移			
今日では、主力の高系14号、紅アズマのほかに、ベニヒヤト、山川紫、主に焼酎の原料や加工用に使われる黄金千貫、紅赤、安納紅、安納こがね、加賀野菜に認定されている五郎島金時、葉柄（ようへい）を生でかじれるエレガントサマーなど、産地ごとに地域色が濃く、時代の嗜好や用途に応じて多様な品種が栽培され、食生活の中に溶け込んでいる。総務省の「家計調査」から月別の購入量の推移を見ると、5月から8月は減少が見られるが（図表1）、最近は、安納芋のような粘質系（ねつとりとした食感）のかんしょが季節を問わず、スイーツなどに活用されるといった動きもみられる。		かんしょの月別購入量・金額の推移（二人以上の世帯）		かんしょ(生鮮・乾燥)の輸出量の推移		かんしょの作付面積と出荷量の推移			
また、かんしょは野菜に加え、穀類の栄養素を併せ持ち、栄養バランスもよく、根から葉まで食せることから、完全なリサイクルを要求される宇宙食として注目され、近年NASAでは宇宙環境に適した新しい品種の研究を進めている。		かんしょの月別購入量・金額の推移（二人以上の世帯）		かんしょ(生鮮・乾燥)の輸出量の推移		かんしょの作付面積と出荷量の推移			
近年、日本の食文化や食材がアジア等の中間層にも広がっていることや、元々アジアでは芋を日常的におやつとして食する文化（ちなみに、かんしょの世界全体の生産量の約9割がアジア）があったこと等を背景として、日本からアジアへのかんしょの輸出が急増しており、平成21年に406トンだった輸出量は、27年には1640トンと5.1倍となっている（図表2）。主な輸出先は、27年には香港が1054トンと64%を占めている。北海道産のながいもの輸出が注目されているが、それに次いで、今後はかんしょが輸出品目として有望視されているものの、加工・業務用の生産減、生産者の高齢化等により国内の作付面積は減少傾向で推移している（図表3）。		かんしょの月別購入量・金額の推移（二人以上の世帯）		かんしょ(生鮮・乾燥)の輸出量の推移		かんしょの作付面積と出荷量の推移			
資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」、総務省「家計消費状況調査」、農林水産省「野菜生産出荷統計」）		かんしょの月別購入量・金額の推移（二人以上の世帯）		かんしょ(生鮮・乾燥)の輸出量の推移		かんしょの作付面積と出荷量の推移			

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、松岡、海老沼 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、[http://www.alic.go.jp/y-suishin/yajuku01_0](http://www.alic.go.jp/y-suishin/yajuku01_000058.html)